

日本の展望委員会（第４回）議事要旨（案）

1. 日 時：平成 21 年 1 月 7 日（水）15：00～17：00
2. 場 所：日本学術会議 6 - C（1）会議室
3. 出席者：金澤委員長、広渡副委員長、唐木幹事、海部幹事、
鈴村委員、浅島委員、岩澤委員、佐藤委員、北島委員、柘植委員、
山内委員、河野委員、猪口委員、笠木委員、武市委員、大沢委員、
土居委員（欠席：大垣委員、藤田委員）
（事務局）竹林局長、綱木次長、井上企画課長、廣田参事官、
渡辺参事官
4. 議 題：1) 前回議事要旨（案）の確認
2) 日本の展望のとりまとめについて
3) 各分科会からの報告
4) 今後の進め方について
5) その他
5. 資 料：資料 1 日本の展望委員会（第 3 回）議事要旨（案）
資料 2 日本の展望委員会 今後の進め方について（改訂案）
資料 3 「日本の展望」作成の作業について（メモ）
資料 4 第 4 期科学技術基本計画に向けた作業工程の見通し
資料 5 各分科会からの報告
参考 1 委員名簿
参考 2 日本の展望委員会 開催日一覧
参考 3 日本の展望委員会について〔総会資料〕
参考 4 日本の科学技術の要諦
参考 5 科学技術基本計画における重要課題に関する提言
参考 6-1 『第 3 期科学技術基本計画(2006 年度～2010 年度)』の概要
参考 6-2 第 2 期科学技術基本計画のポイント
参考 7 各分野別及び各テーマ別分科会に関連する意思の表出
参考 8 日本の展望委員会 役員一覧（メールリスト）
席上配付資料（イメージ図）
6. 議事概要
 - (1) 委員の新規参画
藤田英典会員が、知の創造分科会（テーマ 1：現代市民社会における教養・教養教育－21 世紀のリベラル・アーツの創造）の連絡世話人として委員に参画することとなった。
 - (2) 議題 1) 前回議事要旨（案）の確認
前回議事要旨の確認がなされ、資料 1 議事要旨（案）が承認された。

(3) 議題 2) 日本の展望のとりまとめについて

日本の展望のとりまとめについての全体像についての検討を行った。

金澤委員長から、総合科学技術会議議員との意見交換の概要について紹介された。席上配付資料（イメージ図）について説明があった。

- ・総合科学技術会議議員から、

日本の展望委員会の検討状況について適宜報告して欲しいという要望がある。総合科学技術会議としても、第4期の目玉になる項目等を考えており、日本の展望の議論がうまく反映されることを期待。

イノベーション25の取りまとめにあたっての日本学術会議の報告書は高く評価している。

- ・金澤委員長から岸元副会長（19期）に聴取、

「科学技術基本計画における重要課題に関する提言」は、科学技術基本計画の成果・課題への提言・レビューとしてインパクトがあった。国会議員からも意見があり、総合科学技術会議や文部科学省から反響があった。

- ・（イメージ図）について、人財育成、研究推進、社会還元、国際協力のサイクルが重要。また、すべての項目の調査をしっかりと行うことが重要。大きな流れの中で、イメージを持ちながら日本の展望をまとめるべき。

意見交換の概要は、以下の通り。

- ・第3期基本計画では、社会還元、経済的価値などが重視されているが、世界では、人財育成、研究推進、社会還元は連関して、スパイラル的になっている。日本では、バラバラな課題となっているのが日本の弱点。
- ・個別の項目、キーワードを並べるとそれがすべてになる。このことが科学をゆがめているというメッセージに入れることが必要。
- ・トップを持ち上げるためには、ボリュームが必要である。基礎・基盤の底上げを言わないで、パイは決まっているから、研究を重点化するというのでは困る。
- ・大学・大学院教育、国公私の中での格差についての問題もある。現状の大学の在り方で良いのかについては、検討が必要。
- ・第2期、第3期科学技術基本計画を総括して、何が達成され、何が積み残されているかをふまえ、第4期科学技術基本計画に必要な項目を考えるべき。
- ・第3期科学技術基本計画のレビューは、総合科学技術会議から委託されて科学技術政策研究所が行っている。総合科学技術会議の問題意識としては、①我が国の国際競争力の低下、②大学における教育の質の低下、③政府の投資とその成果が見えにくいこと、の3点である。
- ・現状からどのように変えていくかの議論をしないとインパクトが弱まる。
- ・競争的資金のプロジェクトは、期間が5年であっても実際には単年度主義なので機能していない。
- ・そろそろ日本学術会議が制度に対して言うべき。国際共同研究では、外国ではニーズがあれば、研究の自由度が高い。
- ・企業・行政官もそうだが、政策は国会なので、デシジョンメイキングの人材育成が必要。
- ・規制と競争はどこまで行くのか。任期制はどう作用しているのか。評価疲れの問題もある。

- ・第4期の検討に本気でぶつけるのか。そのためには、科学技術政策研究所と重複することをしてでも、学術会議として情報をそろえることも重要ではないか。
- ・（イメージ図）の調査は、日本学術会議法に基づいて、日本学術会議が関係機関等に説明を求めるのか。

→（イメージ図）は国の科学技術政策はこういう流れで考えるべきであろうということを示している。科学技術政策研究所から照会には協力して欲しい。

- ・第3期科学技術基本計画について、日本学術会議としてのレビューが重要。国立大学法人化など、4年間の変化は大きかった。人財育成の問題が一番重要。
- ・知の社会還元として、サイエンスカフェよりもっと大きなところで、各分野の議論を踏まえて起草分科会が相当議論しないといけない。

起草分科会の立ち上げと中間報告等のとりまとめについて、広渡副委員長、海部幹事から資料3に基づき説明があった。3月16日までに、各分科会から2つの書類を日本の展望委員会（起草分科会）に提出することとなった。

①分科会の「審議の経過及び検討の論点整理」（A4で2-5枚程度）

②第4期計画に盛り込むべき、あるいは提言したい事項とその簡単な説明（事項毎にA4半ページ）

意見交換の概要は、以下の通り。

- ・②は玉出しなので、作成例を出してはどうか。トップ30、ポスドク1万人、留学生30万人計画等の項目を作るのは楽だが、日本学術会議らしいと言えるか。
- ・玉出しの例というのは、学術基本法のようなものか。

→各分科会にどのような事項があるのかを見るためには、事前にあまり規制をかけない方がよい。

起草分科会の委員の人選は、各部から2～3名の推薦により行う。起草分科会の連絡世話人には、金澤委員長から広渡副委員長が指名された。

（3）議題 3）各分科会からの報告

前回の日本の展望委員会（10月2日）以降に開催された12分科会の委員長から報告があった。

人文・社会科学作業分科会（広渡清吾副委員長）

- ・人文・社会科学の全体的な課題について検討しており、第一部の拡大役員会でも議論している。このほか、合同分科会等も開催し議論をすすめている。第一部の夏季部会において、全体で討論して取りまとめる予定。

生命科学作業分科会（北島政樹委員）

- ・分野別委員会の審議や生命科学作業分科会に関連する意志の表出等をふまえ議論を行った。各分野別委員会では、各分野の中期的（10-20年）な学術的な課題と展望（短期的課題を含む）と3つの共通コンセプト（①グローバル化への対応（情報化への対応）、②社会のニーズへの対応、③これからの人材育成）について議論が行い、2月14日までにA4版1～2枚にまとめる。

理学・工学作業分科会（岩澤康裕委員）

- ・分野別委員会から検討状況の報告を提出してもらい、意見のフィードバックを行った。分野別委員会の個別の検討の他、若手・人材の育成など理工学分野において共通と思われる課題について、担当者を決めて分野別の検討とパラレルにクロスして進めることとなった。

基礎科学の長期展望分科会（海部宣男幹事）

- ・分科会を3回開催し、事項出しを行った。次回分科会（第4回）では、科学技術政策研究所から調査について話を聞く予定。基礎科学はどうあるべきかについて個別の事項の問題分析と提言するため、第4回分科会からは中間報告づくりを始める。

持続可能な世界分科会（山内皓平委員）

- ・分科会を3回開催し、サブジェクト・事項の検討を行った。水・食料・エネルギー・資源・環境・リスク・人間の安全保障など、検討課題について文章化し、分担者を決めて作業をしている。

地球環境問題分科会（河野長委員）

- ・分科会までに、どういうテーマを取り上げるべきか、考え方を短い文章で集めた。7つのテーマのたたき台を作ったので、これから他の委員にも文章を見てもらってまとめる。持続可能な世界分科会と重なるところもあると思われるが、3月まではインタラクションするよりも、まず分科会としてまとめることとしたい。
- 水産学の取り扱いはどうなるか。
- まだ、テーマも文章も網羅的になっていないので、今後全体を調整する。
- 「化学物質とリスク」と書くと化学物質がマイナスイメージに取られるので、特定の化学物質とリスクのような枕詞が必要。一般論として注意して欲しい。
- 安全とリスク分科会でも同様な話があるが、化学物質のリスクは量と作用が問題になるので、説明があった方が良い。

世界とアジアのなかの日本分科会（猪口孝委員）

- ・タイトル「世界とアジアのなかの日本」の意味について議論し、アジアの中で多様性を意識しつつ、日本がアジアに向けてどう発信するかを重視することとなった。また、分科会で取り上げる問題群と9つの分野のマトリクスを作った。新規に委員となる2名も含め、担当者を決めた。当初のスケジュールどおりすすんでいる。

大学と人材分科会（笠木伸英委員）

- ・当面、課題の絞り込みを行う。前回分科会では、委員長がこれまでの議論をまとめて論点整理を行った。現在、テーマを決めて項目を拾い出す作業をしている。3月までの分科会で、文部科学省、総合科学技術会議等の関係者へのヒアリングを行う予定。問題としては、グローバル化、法人化の問題、国公私大の理念や役割、研究教育投資、職業教育との関係などがある。大学のそもそも

の必要性、適正規模、制度そのものについても検討したい。また、大学と社会の連携の意味について、人材を上からではなく若者の視線から考えたい。

安全とリスク分科会（唐木英明幹事）

- ・前回分科会では、委員に文書で提出してもらい、これまでの日本学術会議に関連する意思の表出についても検討した。「安全とリスク」はあらゆるものを含むので、分科会委員の中で、一部、二部、三部それぞれで取りまとめ、さらに総論としてまとめ、第四期科学技術基本計画の提言事項となるような共通事項の抽出を行う。

個人と国家分科会（広渡清吾副委員長）

- ・現在は、各委員が順番に話題提供を行い、意見交換を行っている。2月の分科会でも引き続き話題提供・意見交換をおこなう。それらの論点を整理し、3月に取りまとめる。

情報社会分科会（武市正人委員）

- ・各委員で分担して、12の課題についてメモを準備しそれをもとに議論を行った。3月までに課題を抽出するとともに、各委員の協力を得ながら、役員が報告書の原案を作り、それを分科会で議論する。

社会の再生産分科会（大沢真理委員）

- ・報告書骨子案について検討し、ライフステージに沿う形でアプローチすることとなった。総花的にならないようフォーカスを明確にする。今後、エンジニアリング、教育の議論も加える。医療については、過去の日本学術会議の報告書を踏まえ意見をまとめる。

評価、大学等について

- ・国立大学については、法人化後に評価が行われるようになったが、その後どうなっているか。今の評価の方向性で良いのか。評価についての日本学術会議の対外報告「我が国における研究評価の現状とその在り方について」も検討に含めて欲しい。
- ・大学評価の問題については、大学と人材分科会の7項目のカテゴリーに取り込める。法人化の問題とも大きく関係する。
- ・私立大学などもあるが、国立大学だけの議論でよいのか。
- ・日本の科学技術政策や文教政策の問題は、数年のスパンで目標が達成されるが、長期的な視野がないことである。政策面では、一貫性、長期性が重要。日本の展望委員会や起草分科会で強いメッセージを発するべき。
- ・配付資料（イメージ）には、そういった意図がある。
- ・誰が・どこがやるのかが重要。長期的には法律的裏付けが必要であり、学術基本法のようなものも求められる。基礎科学の長期展望分科会では、そのあたりの問題も議論に入れている。
- ・私立大学と国立大学の在り方の問題もある。法人評価では、国立大学の運営の評価を言い過ぎるとコストパフォーマンスの議論に流される。時間、お金

をかけてしなければならないこともある。教育・研究がおろそかになることは困る。

- ・大学と人材分科会では、適切な規模と数についての検討は行うのか。
- 大学の制度のところでふれることになるかもしれないが、規模が違う大学の役割の違いと、数を量的に言うことはなかなか難しい。中教審では、総合大学の役割は何かというイメージを言っている。総合科学技術会議の方では、数を減らすべきという議論があると聞く。分科会では、そもそものところから落ち着いて議論している。
- ・大学の理念から、国立大学と私立大学がなぜ分かれているかを見る必要がある。日本と欧米では、国私の在り方も異なる。
 - ・日本の大学と欧米の大学で違うこととして、寄付、税制の問題もある。
 - ・大学の将来像は難しい問題。進学率など国の違いも含め比較した上で、グランドデザインを考え、いろいろな選択肢を検討して全体で議論する必要がある。

各分科会の作業について

3月16日までに、以下の2つの書類を日本の展望委員会に提出。

- ・分科会の「審議の経過および検討の論点の整理」（A4で2-5頁程度）
 - ・第4期基本計画に盛り込むべき、あるいは提言したいと考えた事項とその簡単な説明（事項毎にA4で半頁程度）
- 内容的にも重なる部分があるので、一つのドキュメントにした方が良いのではないか。
- あくまでも、日本展望をまとめるのが基本であり、第4期科学技術基本計画にも検討内容を反映するものである。
- 起草分科会等の作業の便宜上、日本展望の論点整理等と、第4期科学技術基本計画への要望の書類は分けることとする。

各分科会の情報の共有について

- ・配付資料のホームページでの公表が可能になった。
- ・各分野別及び各テーマ別分科会に関連する過去の意思の表出のホームページアドレスを掲載している。検討の参考として下さい。
- ・各分科会役員等のメールリストを作成した。各分科会間等の意見交換に使用して下さい。

(4) 議題 5) その他

次回の日本の展望委員会（第5回）は、3月18日（水）14:00-16:00に行うこととなった。

各分科会から3月16日（月）までに、以下の2つの書類を日本の展望委員会に提出する。

- ・分科会の「審議の経過および検討の論点の整理」（A4で2-5頁程度）
- ・第4期基本計画に盛り込むべき、あるいは提言したいと考えた事項とその簡単な説明（事項毎にA4で半頁程度）